# 防災グッズにもなるエコグッズ

## 手回し充電ラジオ

普段当たり前のように使い続けている「電気」災害時に停電した際うろたえることの無いように、今のうちから準備しておくいざというときの役に立つと思います。

しかし電気をためておくと言うことは非常に困難です。東日本大震災の後では全国的に乾電池が品切れになった事も覚えておられると思います。

今回はそういうときのために、手回しラジオをご紹介したいと思います。この製品はラジオの他に、LEDライト、携帯電話への充電機能がついています。本体に回転させるレバーがついていて、1分間回すと約1時間AMラジオが聴けます。また、LEDライトは15分点灯できます。

災害時にラジオは非常に役立つ情報源ですから安心で、携帯電話への充電も出来るところが優れています。

東日本大震災の時も臨時で基地局を建て電話が使えるようになりましたが、バッテリーが切れては意味ありませんが、この手回しラジオでは3キャリアdocomo・au・softbank+スマートフォンへ充電が可能になっています。

緊急時に家族、親戚、友人知人と連絡が取れるのは非常に安心するものです。

ほぼ全ての携帯電話に対応しているので、少しずつ充電して困っている周辺の方々と共有するのもいいのではと思います。

普段から手回しで携帯電話の充電に使ったり、懐中電灯、ラジオとして使うと強力なエコグッズですね。

会社に一台、自宅に一台と備えてみてはいかがでしょうか。

大日新聞に関するお問い合わせ・ご意見などはホームページ及び
大日化成株式会社 06-6909-6755 までお願いいたします。

## スタッフ紹介

日頃は営業活動やお電話で応対させていただいておりますスタッフの日常をお伝えいたします。

営業部の松本哲治と申します。早いもので入社後、約20年となり中堅、いやベテランの領域となりました。

思い起こせば今までにさまざまな経験をさせてもらいました。入社後、約1ケ月の研修終了後、営業2部（土木材料販売部門）に配属になりました。ここからが地獄？の始まりでした。当時の営業2部は、トンネル掘削時の崩落防止用ウレタン注入材を販売していました。材料販売という立場ではありましたが、この商品に関しては、工事に立ち会いながら販売するというスタイルでした。私は商品知識がほとんどない状態のまま中村部長と同行で、三重県尾鷲のトンネルの現場に入り作業をしていました。2日目途中から、急用ができた部長が大阪へ戻り、単独で約1週間昼夜関係なく勤務しました。疲労困憊し、途方に暮れていた時、台風が接近し現場作業が中止となり私にとって初めてのトンネル現場での研修は終了しました。

次なるミッションは、緑化です。異業種交流会で、「コンクリートに緑を」というテーマで、セダム植物を、中央分離帯やコンクリート擁壁に根付かせたら、面白いということで、研究活動を開始しました。とにかく開発当時は、植物の特性が分からず、植物の衰退、枯れ等いろいろ経験し、そのたび観察を繰り返しました。ある施工現場では、1ケ月に一度、約5kmの区間の中央分離帯の植物を観察しました。植物の四季毎の成長と衰退、また、日陰、踏み荒らし、雨水等の影響など、施工時期、メンテナンス方法、施工環境、天候などにより、植物は、さまざま顔を見せます。その経験が現在の屋上緑化資材販売につながっています。

トンネル現場での絶体絶命のピンチ、緑化現場での継続調査など、辛い仕事でしたが、終わってみると、「案外簡単やったな。トンネル現場より辛い現場ないな。」「毎月見てるから、植物の特性が分かってきたな」と思えるようになりました。なんとかなるものです。

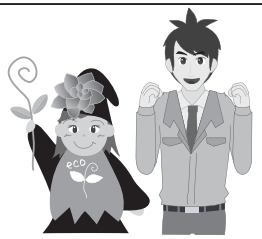
現在、新型ビッグサンの商品開発を技術部の吉村君が行っています。私は開発中の商品を施工店に試験施工をしてもらい、その感想を技術部にフィードバックしています。

新型のビッグサンを全国で使用してもらえるよう仕上げていきたいと思っております。

今後とも、ユーザーに愛される製品を作り続けます。よろしくお願いします。

営業部 松本 哲治

DAINICHI CHEMICAL CO.,LTD.
●本社
〒571-0030　大阪府門真市末広町 8-13
TEL：06-6909-6755(代)　/　FAX：06-6909-6702
●東京支店
〒105-0013　東京都港区浜松町1-2-5
TEL：03-3436-3801(代)　/　FAX：03-3436-3803




次号もお楽しみに

URL：http://www.dainichikasei.co.jp

Vol.22

# 映画で学ぶ環境問題

てぃだかんかん
～海とサンゴと小さな奇跡～

監督：李闘士男
脚本：鈴木聡、林民夫
出演者：岡村隆史、松雪泰子
配給：ショウゲート
公開：2010年4月

「てぃだかんかん」とは、沖縄の方言で「お日様がカンカン照り」という意味なのですが、この映画の主人公は、沖縄でサンゴの人工養殖に成功した金城浩二（きんじょう・こうじ）さんの実話を元にしたものです。

実在の金城さんは、沖縄県読谷村出身。ちょうど沖縄が日本に復帰した頃に生まれ、小さな頃から自然が大好きで、海や山をめぐって遊んでいたそうです。

そんな金城さんは、徐々に白色化するサンゴに心を痛め、順調に経営していたお店を譲渡し、1998年からサンゴのための活動を始めます。当初は、「環境より地元の発展や利益が優先」といった周囲の人から、批判され排斥されて大変な苦労をします。

そのうえ、サンゴの養殖は長年の研究者でさえ難しく、養殖したサンゴから産卵を成功させるなど、夢物語と言われるほど、長い時間がかかりました。ようやく産卵を実現したのは、7年後。その間は、収入も少なく不安定で、借金を重ねての生活だったため、奥さんやお子さんの苦労も、かなりのものだったことでしょう。

本作では、その苦労話の主人公を、お笑い人気コンビ「ナインティナイン」の岡村隆史がカラっと明るく演じています。彼を支える骨太の美人妻は松雪泰子が、周囲の支援者には吉沢悠など、さわやかな出演者がずらり。映画全体も非常にさわやかで、見終わったあとはこちらまで元気いっぱい、「てぃだかんかん」な気分になります。

基本的にストーリーは、実話に準じており、岡村演じる金城健司（役名）は、サンゴのあるバーを4号店まで順調に経営させながらも、白色化するサンゴを何とか再生したいと、店を辞める決心をします。

サンゴの白色化とは、サンゴが死滅しているということで、その主な原因は、沿岸をコンクリートの岸壁などで開発していることと、温暖化の影響などがありました。

閉店した店舗の中で水槽を並べ、無事にサンゴを再生させるものの、海に移植しなければ、何の意味もないことから、友人達と移植作業をおこなうのですが、地元の漁業組合は「サンゴが増えても儲からない」と猛反対。

その上、収入が無い中での活動は日増しに生活を圧迫し、借金も日増しに増えていきます。

長年協力をしてくれた友人の中には、金城の家族を想い、彼と対立する者も出て来ます。その上、支援を約束してくれた投資家が行方不明になるなど、サスペンスではないのに、見ているこちらまで、やきもきさせられます。

裏切られ、バカにされ、落ち込み自暴自棄にもなる金城。しかし、神様は彼の熱意をくみ取ってくれました。遂には世界初か、と言われるサンゴの人工養殖と産卵に成功したのです。

これは紛れもなく、「人の熱意が奇跡を成し遂げる」サクセスストーリー。

全編に出てくる沖縄の海の美しさを感じるとき、私達は「再生を無視した開発をは悪だ。」と、心に刻むことでしょう。

芸達者な岡村隆史は、職業俳優以上の演技力と存在感で、見る者の心を癒やします。ぜひお子様も含めて、ご家族でご覧頂きたい映画です。